

令和5年度 大規模災害時の増尾地域内自治会と行政との意見交換会

日時：令和6年2月10日（土） 午後1時30分～午後5時00分

場所：増尾近隣センター 会議室A

出席者：（町自治会等）

増尾町会 町会長 伊藤様、防災担当 吉田様 / 加賀町会 町会長 中井様、環境防犯防災部長 竹林様
松野台自治会 自治会長 山中様、防災本部長 塚本様 / 名戸ヶ谷町会 防災担当 木村様
東武なかはら団地自治会 自治会長 大熊様、防災担当 菅野様 / 増尾東映自治会 防災委員 大鹿様
増尾東映第二自治会 防災委員 若林様 / 増尾日立自治会 防災委員 高橋様、副会長 久保田様
白鷺町会 副会長 北原様 / あざみ町会 自治副会長 軍司様 / 新柏二丁目第一自治会 自治会長 臼井様、防災会長 瀬尾様
新柏二丁目第二自治会 防災委員 柿崎様、佐々木様 / 新柏三丁目自治会 自治会長 阿部様
サンパセオ新柏管理組合 副理事長 大野様、自主防災会副会長 三沢様 / サンパセオ新柏アネックス管理組合 副理事長 住岡様
（柏市）
危機管理部防災安全課 齊藤様、西山様、増田様 / 市民活動支援課 江端様 / 増尾近隣センター 中村様
（増尾地域ふるさと協議会）
会長 青柳様、書記 山下様、防犯防災部長 志水様、防犯防災副部長 間宮様

（ふるさと協議会 志水） 時間になりましたので、令和5年度の町自治会と行政との防災の意見交換会を開催したいと思います。今回、議事録作成のために発言は録音をとっておりますので、発言に際しましては、町会名とお名前をおっしゃってください。では、会長からひと言お願いいたします。

（ふるさと協議会 青柳） 今日とは三連休の中お集まりいただきありがとうございます。ご存じの通り、1月に能登半島で大きな地震がありました。私たちは防災に関しては常日頃の訓練に基づいた意識を持たなければいけません。今回の地震でも想定外という発言が聞かれますが、今後、想定外の事態が起こりうることを前提としたシステム作りが求められます。防げるものは防がなければなりませんので、よろしくをお願いいたします。

●ふるさと協議会防犯防災部配布資料…<https://www.masuofurusato.com/bouhan/bunsyo/240210-1.pdf>

（ふるさと協議会 志水） 今日の議事内容はお配りした資料に書かせていただきました。まず最初に、今年1月の能登半島地震で柏市から現地に市の職員が支援に出向いております。今回、現地に行かれた齊藤さんが来ておりますので、現地の状況やそこで見えた課題などについて、お配りした資料に基づいてご説明いただきたいと思います。二番目に、令和5年度の防災に対する防災安全課での新施策・強化策についてご説明いただけます。三番目が大規模災害における町自治会と行政との連携について。基本的に避難所運営委員会は柏市の災害対策本部とのやりとりになりますが、町自治会に関しては、近隣センターの地区災害対策本部とのやりとりが中心になります。地区災害対策本部とどのような連携をとっていくかを『大規模災害における町自治会と行政との連携について「地区災害対策本部の視点から町自治会皆さまへの依頼」』という資料で説明をお願いしています。この資料は、地区災害対策本部としては、柏市の中でも初めて作っているたたき台になるかと思いますが、これが今回のメインの討議事項となります。四番目が能登半島地震で多く発生した、農業用ハウス・集会場などの自主避難所についてということで、自主避難所への物資の支給などの体制がどうなるのかを確認したいと思います。五番目が通信手段。皆さんは年に3回無線機のテストをやっていますが、多くの災害でも携帯電話が使えないとか、通信網が遮断されて情報のやり取りができないということが発生しています。幸いにも増尾地域では無線機を各町自治会に入れてもらって近隣センターとやり取りができるという体制が構築されていますので、うまく使っていただきたいと思います。六番目に、防災に関する町自治会から行政への全般的な質問を上げていただきたいと思います。今回、高田センター長がコロナに罹りまして出席できないということで、近隣センターの中村さんが代わって対応することになります。では一番最初に、能登半島に行った齊藤さんから、現状と見えてきた課題についてお話しいただきたいと思います。

1.令和6年能登半島地震で柏市から現地に派遣され現地で支援の状況について

●防災安全課配布資料…<https://www.masuofurusato.com/bouhan/bunsyo/240210-2.pdf>

（防災安全課 齊藤） 皆さん報道等でご覧になっていると思いますが、発災してから10日後の1月10日に現地に入り、14日まで5日間滞在いたしました。資料は戻ってすぐに作ったものですので、現在の数字と若干異なる部分もございます。今回の能登半島地震では、平成30年頃から地震の回数が順次増えてきたものです。マグニチュード7.6で震度7の地震が発生したのが16時10分、その数分前には震度5強の地震が発生しています。国では、その時点で災害対策本部が立ち上がっていたことになっていますが、今回行きました珠洲でも震度6強を観測した地震となります。スライド2が能登半島の地図と震源の位置関係となります。スライド3、私たちが珠洲市に入ったときには、死傷者と負傷者の数はある程度判明していましたが、家屋の倒壊については多数という情報しかない状況でした。

珠洲市に行くにあたっては、**金沢市まで新幹線で行き金沢駅から珠洲まではレンタカーを借りて向かいました**。距離的には140キロで、柏からだと南房総の館山までの距離になります。本来であれば高速のような一本道があるのですが、崖崩れ等で通行止めとなっていました。我々のような災害派遣と、自衛隊、警察、消防が全部同じタイミングで現地向かっていましたので、金沢駅から現地に到着したのが11時間後、ずっと車に乗りっぱなしです。全く車が動かない、その場で2時間ずっと立ち往生という状況の中、金沢に10時に到着して午前10時半に出発し、珠洲市役所についたのが22時です。こういう道路事情もありまして、なかなかハードな道りであったということになります。

スライドの4番が派遣されました珠洲市の概要になります。皆さんご存じかと思いますが、三辺を海に囲まれた能登半島の先端になります。**令和5年の7月31日時点の人口が約1万2千、人口の半分以上が65歳以上の高齢者世帯で、学校の数もこの程度でお子さんが少ない地域になります。令和4年度時点の珠洲市職員数は400人ちょっと。人口では柏市の35分の1、職員数は5分の1ということになります。**

スライド5に移ります。実際に我々が災害派遣に入ったとき、船橋市、市川市、千葉県という他のチームを含め20名程度で同じタイミングで向かったのですが、移動に長時間かかって到着時間が異なったこともあり、一度珠洲市役所に集結しようということになりました。珠洲市役所の本庁舎に入ったのですが、**目視した感じでは建物自体に全く地震の影響はなかったのですが、断水していたということもあり、庁舎のトイレは一切使用禁止。屋外に仮設トイレがあったのですが、男子女子含めても5～6台です。事前に千葉県から、市の職員は20名程度しか登庁していないという連絡を受けていましたが、珠洲市の職員は一人も見えていません。**

我々は、千葉県と福井県と一緒にチームで動くという立場にありましたので、まずそこに挨拶に行ったのですが、実際には災害対策本部は立ち上がっておらず、フロアは自衛隊が占拠しているという状態で、災害対応を支援に頼らざるを得ない形でした。翌日以降は避難所に向かうのですが、**珠洲市の指定避難所全26ヵ所のうち、災害発生直後に開設したのは21ヵ所、他に市が指定していない自主避難所が数えきれないほど立ち上がっているという状況**になります。**1万2千人の市民のうち、7千人が避難所に一時的に身を寄せた**と言われております。

スライド6にあるように、千葉県と福井県が共同で運営する避難所として8ヵ所が割当てられました。そのうち柏市の担当は、イの旧本小学校で、人口減少により廃校になった小学校になります。ここは、公民館のようにコミュニティの活動場所として使われており、建物は3階建てで小さな体育館が一つあり、昔ながらの学校という作りになっています。

スライド7が市内の状況になります。**上下水道については、浄水場が壊滅的なダメージを受けた**ということで、**市の全域が断水**していました。柏市が珠洲市に到着した10日後には、**水については自衛隊の給水車が毎朝7時半から8時の間必ず来てくださったので、地域の皆さんはそこに取りに行き、避難所の水もそこで補う**という形になっています。我々の行った避難所では仮設トイレは男1・女2の3ついただいております。女2は様式と和式が各1つずつで、男は和式です。健常者の方は仮設トイレに行くのですが、65歳以上が半分以上ですので、高齢者が避難所に来ています。100歳の方や要介護の認定を受けている方もおられたのですが、そういう皆さんは仮設トイレに入れませんので、校舎の中にあるトイレを使わざるを得ない。当然、水は流せませんので便袋での対応となり、それだけでは汚れてしまいますので、吸水シートを貼って汚れたら取り換えるという対応をとっていました。

主要幹線道路は一応復旧はしているのですが、簡易的な復旧です。道路はデコボコしているのが当たり前で、砂を入れて均してはいるのですが、普通に40キロで走っていても相当な衝撃が来るという状況です。それも、片側1車線ずつの2車線道路だったのが、片方は崩壊していました。そういう所を通って珠洲に向かわざるを得ないという道路事情でした。通行止めがいたるところで起きており、迂回をしないと現地に到着できないくらいの状況でした。

住宅被害については、昔ながらの家ばかりでしたので、全て倒壊しています。迂回して現地向かっている途中で、新しい建物だというのも、近くを通ると基礎が割れていたり、壁にクラックが入って住むのは苦しいだろうという状況が見受けられました。

スライド8では、我々が現地の避難所で何をしたのかということになります。**珠洲市というのは柏市と地域柄が全く違い、避難所の事は自分たちでやるという姿勢が強く、我々が行った避難所では、柏市では町会にあたる、区長さんが避難所の施設管理者となっており、他の施設では市議会議員や校長先生などがリーダーシップをとってやっていました**。我々がいった避難所の区長さんは、避難所は地域の皆さんと一緒に自主的に運営していくものであり、行政が手を出し過ぎると住民が何もなくなってしまうという意識が強く、私たちが何をやるにしても、区長さんに指示を仰いでから対応していました。そのため、区長さんは震災直後からずっと一人で避難所で対応しており、負担が大変大きくなっていったように思います。

①避難所運営の業務として我々がやったことは、**避難所環境の維持管理**です。廊下、ドアノブの除菌、ストーブを24時間つけていたので部屋の換気、ゴミ出しの清掃などをやっていました。また、**避難者の名簿の作成と管理**。私たちがいったときには既に10日経っていましたので、新たな入所者はいないのですが、退所者が徐々に増えていきましたので、その名簿管理を行っていました。あとは、**千葉県と柏市への定時報告**。これは毎日1回やっていました。避難者への情報周知については、珠洲の市役所から情報周知を依頼されることは全くなかったのですが、情報を出すにしても印刷する手段がまったくありませんので、印刷したものを持ってきてもらわないと掲示もできないという状況でした。あとは、避難所での安全確認。実際に夜間の見守りの中で、要介護4の方が体調不良になって緊急搬送されたということがありました。

②**支援物資の仕分けと搬送業務**。自衛隊が毎日午前中に物資を届けてくれました。ただ、これは**我々が要望したものを持ってくるのではなく、あくまでもプッシュです。勝手に持ってくる。我々が要望したものは何一つ持ってこない**。実際、現地ではストーブを24時間焚いていますので灯油が必須です。最初は潤沢に持ってくるのですが、途中からは1缶、2缶しか持ってこない。そんな量では足りないということを直接自衛隊に言っても、「限られたものなので」ということで、なかなか持ってきてくれなかったのですが、どういうツテかは分かりませんが、区長さんが電話すればすぐ持ってきてくれたということもありました。灯油は我々がいる時は切らさずにすみました。

ブルーシートについても、最初は潤沢にあったので、区長さんも我々も欲しい人にはいくらでもあげていたのですが、2週間くらい経つと、ブルーシートが欲しいという要望がかなり増えてきます。ただし、自衛隊からは物資が届かなくなり、ブルーシートは一切入らなくなりました。このように、我々が欲しいものと持ってくるもののミスマッチがずっと起きていた、というのが避難所生活での物資に関するものとなります。

次に③**給水活動**ですが、これも毎朝必ず7時半か8時に自衛隊の給水車がやってきます。これは生活用水を含め飲料水に使えるものになりますので、潤沢に届けてくれました。これも先ほどのプッシュの話ではないのですが、**避難所に我々が入ったときに潤沢にあったのはペットボトルの水**。これは倉庫に入りきれないほど毎日のように自衛隊が持ってきたので、「もう十分にあるので持ってこなくていい」といえば、持ってこなくなりました。

最初に食料としてあったのは山崎のパンで、毎日持ってきてくれたのですが、これも1週間ほど経つと来なくなり、**次に自衛隊が持ってくるのはカップラーメン**。これも当然、我々が希望するものでなく、プッシュで送られてきているものを持ってくるという状況で、我々の要望は、一応は書いて毎日自衛隊に要望する。我々の連絡ツールというのは、個人の携帯電話だけなんです。固定電話もなく、市や県との連絡は個人のスマホ。ロゴチャットという行政のラインのようなツールでやり取りをしていただけです。物資を要望する場合も千葉県を通して要望するのではなく、自衛隊が物資を持ってきたときに要望書を出すことで、自衛隊に直接言うということになっていました。

文書による報告はここまでで、スライド9以降は私が撮ってきた写真になります。校舎には雪が積もっていたのですが、この程度であれば雪かきの必要はないと言われました。避難所前の崖は崩れていました。スライド10は現地の避難所の受付の写真になりますが、我々はストーブを囲むようにして24時間待機していました。

スライド11は、在宅避難者向けに貼り出した給水時間の案内と自衛隊の給水車の写真です。

スライド12。これが実際に空いた灯油の缶で、3~4日分だと思います。灯油の入ったタンクは部屋に持って行きますので、各家庭から持ってきた空の灯油缶になります。横の炊事場の写真ですが、LPガスがありましたので、お湯を沸かしてサトウのごはんを湯煎して温かいご飯を提供していただいていた。

スライド13が避難所の中のメインの廊下です。我々にできることは整理整頓くらいしかありませんので、毎日整理していました。スライド14の左の写真は**避難所の中で何が足りないかを聞いて、毎日自衛隊に物資要望書を出していましたが、実際にはプッシュの物資しか来ない**ということになります。右は退去者案内で、退去される方に退去カードを書いていただき、安否確認と二次的に避難する連絡先を書いていただいて状況を把握していたものになります。

スライドの15は調理室です。我々も朝と夜、作っていただいたものを食べておりました。調理室の中にも2世帯、8人くらいの避難者の方が生活していました。我々が到着したときには避難所に75人の避難者がいたのですが、帰る頃には67、8人、1ヵ月経った現在は36、7人になっていると思います。その程度出ていく方がおられるのですが、話を聞くと、避難所の生活が快適なので出ていけないというお話もございました。ご自宅が潰れてしまって大丈夫なのは納屋とか倉庫であり、避難所には暖かいご飯と足を伸ばして寝られる暖かい場所がありますので、プライバシーはあまり無くとも、ここがいいということのようです。これは、我々が行った後に、もう1チームが同じ避難所に行っており、最新の状況を聞くことができましたのでお話ししました。

15の右の写真はフリーWiFiです。docomoのフリーWiFiになります。**災害時にはファイブゼロジャパンというところで無料のWiFiが使える**ということで、**柏市であればコンビニとかがファイブゼロジャパンの対象になってきます**。ただ、珠洲市というところは、本当に何もありません。行った避難所も廃校となった旧本小学校です。周りは山だけでコンビニを探しても全くありませんので、北陸電力さんが持ってきていただいて、ファイブゼロジャパンのWiFiとスマホの充電をやっていただいています。実際のところ、私のsoftbankは全く電波がはいりませんでした。docomoとauは電波が入っていたという地域です。なので、このフリーWiFiを使わせてもらおうとしたのですが、感度があまり良くないため、連絡手段として辛かったというところがあります。

●00000（ファイブゼロ）JAPANとは…<https://ja.wikipedia.org/wiki/00000JAPAN>

16は校舎内のトイレです。基本的に使えませんので、使う場合は便袋を使ってくださいという掲示です。この部分の処理についても、我々行政はっさい手を触れていません。避難者の方々が自分自身でゴミやトイレの処理と掃除を行っています。中には、綺麗に使ってくれない方がいるというグチも聞きましたが、区長さんが全て対応してくれていました。

スライド17の左は仮設トイレ。男1の女3というのがだいたいのトイレの割当てになりますが、3台しかなかったので1対2となっていました。トイレの前に手洗い場を作っていたのですが、その横にゴミ置き場がありました。我々が入る前に千葉県が1月4日から9日まで入っているのですが、いっさい可燃ごみの回収はありませんでした。我々が入った3日後から可燃ごみの回収が始まりました。そのため、写真の場所には収まりきれないため、違う場所に保管されています。**ゴミの回収はなかなか始まらなかったのですが、回収が始まってからは、毎日のように来てくれていました**。仮設トイレのし尿の汲み取りの部分も、可燃ごみの回収が始まった頃から来ているような感覚があるのですが、毎日のように来るわけではないようです。

スライド18です。体育館にも避難者が何人かおられました。ちょっと寒いのですが、段ボールベッドがございましたので、要介護の方が生活されていました。右の写真が我々が泊まっていた2階の音楽室になります。ここには、避難者の方と違って、暖房器具はいっさいありません。ベッドのようなものもなく、教室の床の上に毛布を敷いて寝るために、すごく寒かったです。寝袋を2重にして、毛布4枚を掛けても底冷えがするくらいでした。

スライド19です。幸いにして、この避難所には、コロナやインフルで発熱している方はいっさい出ませんでした。ただし、**発熱者用の部屋は用意しており、3人分の布団を常に敷いておき準備はされているという状況**です。この校舎の2階の他の部屋は本棚も全部倒れ、窓ガラスも割れて使える教室は限られていたのですが、使えるところを救護室などに使っていたという形になります。

次のページです。ここからは現地の写真になります。少しわかりづらいのですが、電柱などは斜めになっています。道路の凹凸も相当ひどい。右の写真も一見普通の道路のように見えますが、右側が崩れており通れないため、ただパイロンを置いているだけの、片側1車線の相互通行になっています。

21ページのスライド。これが、現地の避難所近くの大きな交差点ですが、電柱も案内表示も今にも倒れそうに斜めっています。マンホールは隆起して4、50cmの段差があるという状況です。右側の写真は珠洲の市役所の近くですが、電柱が斜めっており、道路も起伏が激しくなっていました。

22ページ。ここが珠洲市内で、昔の住宅は1階がベションコで2階が1階のようになっていました。23ページ以降は私たちが活動したタイムスケジュールのようなものになります。23ページは小さな写真ですが、ニュースでもご覧になったかと思いますが、車が道路の割れたところにはまって斜めになっていました。その右側は事前に渡されていた珠洲へのルート地図なのですが、色の濃い道路しか通れず、その道路も所々迂回する必要があるのですが、そのルートは自分たちで考えるという状況です。

24、25、26は実際に避難所での生活の予定です。珠洲の市役所の方は、1回だけ避難所にお見えになりましたが、特に我々に声をかけることもなく、二次避難について区長さんにお話をされていました。二次避難の取りまとめについても、区長さんが一人一人に声をかけて意向を取りまとめたものを、そのまま市役所に伝えに行っていました。**我々が珠洲の市役所の皆さんに連絡するツールは全くありませんでしたし、珠洲市からのお願いごと一切ありませんでした。**我々が情報を得るのはNHKのテレビのほうが早かったです。同じタイミングで珠洲市長もお見えになりましたが、「もう水はダメだ、壊滅」「1年はこういう状況が続くだろう」「もう他の地域に避難することを考えることを、区長さんから話して欲しい」という依頼をされていました。

最後の27は、最終日に我々が金沢に向かうというところで、穴水も信号が斜めになっていますが、普通に使われている信号です。こういうところで仕事をさせていただきました。ご質問等いただけましたら、細かいところをご説明できるかと思えます。以上となります。ありがとうございます。

(ふるさと協議会 志水)	ご苦労様でした。ありがとうございます。10日経って珠洲市に行かれた段階で、市は何も体制ができていないという状態で、対策本部も立っていないし、市の職員もほとんど見当たらないということでしょうか。
(防災安全課 齊藤)	おっしゃる通りで、対策本部がどこに設置されているのかもわからない状況です。市役所の中でも受援の方しか見ませんし、皆さんいろんな事務服を着て、それを見てどこから来ているかがわかるような状況です。珠洲市の人は一人も見えない状況です。
(町自治会)	増尾町会の伊藤です。能登半島は古い家が多く、井戸も多くあるかと思うのですが、そのあたりはどうだったのでしょうか。
(防災安全課 齊藤)	水に関しては水道の話になりますので我々は専門ではないのですが、珠洲市は基本的に県営の部分と自前の部分があるらしくて、県の水は金沢から引くのですが、珠洲は県の水は引いてこれないため、自前でやるところもあるらしいのですが、浄水場は基本的に珠洲市の運営でやっているおり、全てがダメージを受けていました。一部の地域は井戸を使用しており、その地域に限っては水が復旧しているというニュースは私も見ました。水道を使わずに井戸を使っていたという、 本当に限られた地域だけが復旧していた というふう聞いています。
(町自治会)	井戸を使用している数は少ないということですね。
(防災安全課 齊藤)	その後、珠洲市の災害広報というのが1月10日過ぎに出て、市からは上下水道は使わないで欲しいということが告知されており、壊滅的なダメージを受けているということの周知をされていました。
(町自治会)	お話では、区長さんが全権を持ってやっているという感じですが、柏とか船橋から行っている職員も避難所では区長の指示で動くという形態だったのでしょうか。
(防災安全課 齊藤)	おっしゃる通りです。千葉県と福井県で8ヵ所の避難所の運営を任されており、ロゴチャットで施設管理者や代表を必ず確認するのですが、区長さん、市議会議員、学校であれば校長先生であったりという皆さんが指示をしていました。
(町自治会)	そのような指示者は誰が決めるのですか。
(防災安全課 齊藤)	珠洲市の地域防災計画の中で、「自主」という部分で指示者の取り決めをしているようです。これは地域柄ということで柏市とは全然違うところかと思えます。 区長さんも、その区の中で10年以上やられていますので、避難されている方は全員知っています。在宅の方々が「物が欲しい」と来れば、「何が欲しいんだい」という会話で、知らない人がくると「あの人どこの人？」と、住所を書いてもらうときに「あ、ここに住んでいるのか」実際に自主の避難所の部分も、我々は情報を把握できていないので、隣の区長さんが来て、「今日で私のところの自主避難所を閉めるから、ここに物を取りに来る人が増えるからよろしくね」というようなやり取りはありました。
(町自治会)	柏市から地震の10日後に出発されたということで、いろいろ準備はされていたかと思いますが、物資が足りないという報道がされていた中で、時間の問題はあったかと思いますが、 柏から車を使って物資を積んでいかに、金沢まで新幹線で行かれた理由 を教えてくださいませんか。
(防災安全課 齊藤)	我々は1月10日に行くことになるのですが、1月の4、5日のあたりに国から県や政令都市に「対口(たいこう)支援」ということで、エリアごとに支援を担当する自治体の依頼があります。実際に1月4日から9日まで千葉県が支援に入るという話になっています。避難所運営というところで、福井県と千葉県が対口支援をするということになりました。その中で、千葉県の第一クールと言われている皆さんが終わるタイミングで、第二クールに誰が行くかということで、人口の多い中核市に声がかかりました。柏市が行くということになったのが、1月8日の月曜日から9日、それまで誰がいくということは全く決まっていませんでした。

●対口支援とは：https://www.newton-consulting.co.jp/bcmnavi/glossary/counterpart_system.html

柏市でも10人位は支援に行く想定はしていましたので、10人が一緒に行く手段を検討すると、大きなバンかワゴン車ということになるので、スタッドレスタイヤの準備もしていたところ、柏市から3人が行ってこれということになりました。支援は柏市が独自で動くものでなく、千葉県からの指示で船橋市・市川市・柏市は各3人、千葉県からは10数人のメンバーを出し、東京駅から金沢駅への新幹線の乗車時刻及び金沢駅からのレンタカーの予約も全て千葉県が行っています。

我々も指示に従って現地に向かうだけという状況ですし、現地で何が不足して何を持っていくということも分かりませんでしたので、我々が迷惑をかけないために、自分たちの食料5日分、便袋、トイレットペーパー、カイロ、寝袋などを準備して、4泊5日の旅に行くようなキャリアケースやリックを背負って、各々の市から現地金沢集合で向かったという次第です。

(町自治会)	ありがとうございました。情報がなかなか入ってこないという状況だったんですね。
(防災安全課 齊藤)	初っ端でしたので、これがあったらいいという情報もないまま、必要なものを想定しながら、現地に置いてくれるようなものを選んで持って行ったというところですよ。
(ふるさと協議会 志水)	区長さんが避難所を仕切っているという話ですが、増尾でいうと避難所運営委員会がそれにあたると思うのですが、増尾地域の5避難所に関しては、行政の力を借りながら運営しようということになっています。石川県の状況をテレビで見ていると、体育館の避難所にも土足で入っていたりしています。石川では2、3年前から地震が多発しているわりには、避難所運営の体制ができていなかったのかとも思ったのですがどうなのでしょう。
(防災安全課 齊藤)	実際に私どもが行った旧本小学校では土足でした。廊下や体育館は土足で出入りしていましたが、生活している場所のように靴を脱ぐべきところでは脱いでいました。他の避難所がどうかということは確認していません。
(町自治会)	加賀町会の中井です。現地には、今でも柏市から交代で行っているのですか。
(防災安全課 齊藤)	柏に限らず、千葉県の自治体が5日間のクールで引継ぎのために前後1日をかぶせながら、今も、違うチームが行っています。今後、2月には我々も行く予定になっています。避難所運営に限らず、家屋の罹災証明作成の手伝いとか、給水、保健師の支援などについても、これがいつまで続くのかはわからないものの、要請があれば行くという現状です。
(町自治会)	ということは、市町村レベルで行くのではなく、県単位で運営に関わっているということですね。
(防災安全課 齊藤)	総務省から、珠洲市の対口支援は浜松市を筆頭にしているという指示があり、珠洲市の中でも業務が割り当てられており、避難所運営については千葉県と福井県ということになっています。
(ふるさと協議会 志水)	ちなみに柏市が被災した場合の対口支援はどのくらいですか。
(防災安全課 齊藤)	決まっているのかもしれませんが、どのくらいかは知りません。
(町自治会)	把握されている情報として、現時点での珠洲市はどうなっているのでしょうか。
(防災安全課 齊藤)	現状では、我々が行った小学校の避難所で使っているのは校舎棟だけで、体育館はもう使っていません。この間行ったチームの話では、簡易シャワーが設置されたそうです。また、避難所を使っている皆さんも、最初は綺麗に使うという意識が高かったのですが、次第に薄れてきているようです。
(町自治会)	増尾日立自治会の高橋と申します。給水の状況は報道されている通りかと思いますが、排水についてのダメージというのはどうなのでしょう。
(防災安全課 齊藤)	下水についてはダメージが大きいです。上水ができたとしても下水がダメなので使用できないという感じです。私も現地へ行ったときは知らなかったのですが、汚れた水は外のドブに捨てるという感じでしたので、校舎の中の排水施設を使うということはないという状態でした。
(ふるさと協議会 志水)	生活用水というものは、給水車で配ることで間に合うものなのではないでしょうか。
(防災安全課 齊藤)	避難所で使う生活用水というのは、簡易トイレで流す水とトイレの後の手洗いくらいのものでした。 お風呂は全くありませんし、身体を拭くということもできませんでしたから、ほかに水を使うということはなかったですね。
(ふるさと協議会 志水)	よく問題になるのが、飲み水は何とかなっても生活用水が足りないということなので、プールの水を使って乗り切るなどと言われますが、洗濯はできるものですか。
(防災安全課 齊藤)	洗濯はできません。皆さん着の身着のまま出てきていますし、我々も着替えはできなかったもので、2週間程度であれば現地では水を使うことはあまりないという状況でした。
(町自治会)	松野台の塚本です。在宅避難や自主避難所に対する避難物資の支援体制について感じたことはございますか。
(防災安全課 齊藤)	実際に避難所に来る物資の管理というのはできないと思いました。 避難物資の種類と数を管理することは難しいと思います。毎日のように物が来て、必要な方が毎日持っていきますので、数を把握しておくということは正直難しいです。在宅の方も、それほど頻繁ではないのですが、主に食べ物と水、ブルーシートの3つについては取りに来ていました。周囲は農家や酪農の方が多かったものですから、在宅避難の方が避難所に食べ物を持ってきてくださるということがありました。
(町自治会)	物資について、避難所用と在宅避難者用の分配という点でトラブルのようなものはなかったですか。
(防災安全課 齊藤)	そのようなトラブルは一切ありませんし、避難所の中でのトラブルというものもありませんでした。ただし、避難所で生活されている要介護の方や認知症の方などの中には、私がいた5日の間に明らかに病状が進行したと思われる方が、何人かおられました。そんな皆さんにとって、避難所生活は過酷なものだという気がします。
(ふるさと協議会 志水)	能登の被災状況については、これで終了にしたいと思います。

2. 令和6年度柏市防災事業について

●防災安全課配布資料…<https://www.masuofurusato.com/bouhan/bunshyo/240210-3.pdf>

(ふるさと協議会 志水)

次に、令和6年度柏市防災事業についてということで、防災安全課で5年度からどのようなことを進めているのかを含めてご説明をお願いしたいと思います。

(防災安全課 西山)

柏市の防災計画で令和6年度の対策の推進についてご説明させていただきます。まず令和6年度の事業の方向性として、災害に備えた自助・共助・公助による対策の推進といたしまして、次の3つの体制構築に向けて進めてまいります。一つ目は災害後72時間を通り越す体制の構築、二つ目は避難所運営体制等の構築、三つ目は誰一人取り残さない避難体制の構築となります。

まず、災害後の72時間を通り越す体制の構築についてですが、72時間を通り越すためには電源の確保が必要であり、防災拠点、避難所での電源確保が特に重要となります。令和4年度から配備を開始した電動車については、令和5年度はアミュゼ柏を除く全ての避難所に給電可能なハイブリッド車を配備いたしました。この計画ですが、令和10年度までに市内避難所112箇所に電動車を配車できるよう進めてまいります。さらに、環境、防災の両面に配慮し、公用車を令和12年度までに電動車率100%、EV車率50%を目指してまいります。

3ページ目の自家用給油取扱所整備事業についてご説明いたします。大規模災害が発生した際に安定した災害救助・支援活動を行うために、消防車救急車の緊急自動車、指定避難所及び防災倉庫に備蓄している非常用発電機、消防庁舎や指令センター等の自家発電設備に使用する発電機の燃料を保管するため、自家用給油取扱所を整備します。今年度に建設に係る設計を行っており、令和6年度、富勢分署敷地内にある消防訓練センターへ建設予定となっています。

4ページ目は生活水の整備及び改修になります。災害時における生活水の確保を目的として、手押し式の井戸を整備しております。これは生活水のため飲料水には適しませんが、トイレ等に利用するため、生活する上で欠かせないものとなります。令和5年度に水源を必要とするマンホールトイレを利用する際を想定して、整備及び改修を進めております。令和6年度につきましては、北部地域5校と南部地域5校の計10校の小中学校に整備する予定となっております。

次に、飲料水の整備及び改修についてご説明いたします。安定した飲料水の確保のため、各コミュニティエリアにある整備済の老朽化した耐震性井戸付貯水装置を改修します。耐震性井戸付貯水装置とは、平時から飲料水40㎡をタンクに貯留しており、災害時はこれらを飲料水として用います。また、名称の通り井戸がついていますが、40㎡のタンクが空になった際には、地下水を汲み上げて飲料水として利用しています。令和6年度は今年度から継続して、平成8年に設置しました酒井根小学校の耐震性井戸付貯水装置を改修します。なお、飲料水の備蓄については、市内109箇所の避難所に飲料用のペットボトルを備蓄しております。

次の6ページ目、非常用トイレについてご説明させていただきます。非常用トイレとして避難所に簡易トイレを備蓄している他、マンホールトイレを備蓄しております。マンホールトイレとは、下水道管のマンホール上に設置する仮設トイレのことになります。こちらの写真は職員が実際にマンホールトイレを設置した際の写真になります。右側の写真はマンホールトイレの中の写真になります。便座の下にはマンホールがあり、汚水が下水道管に直接流れる仕組みとなっています。なお、マンホールトイレは汚水を貯められる構造をしており、下水道管が損壊した場合でも利用ができます。過去の災害においてもトイレが使えない、あるいは使いにくい等の理由でトイレを我慢することで体調を崩す方がいらっしゃったことから、避難所となっている市内全小中学校に令和8年度末までにマンホールトイレの設置を進めてまいります。

続きまして7ページ目、備蓄物資の整備についてご説明いたします。本市では平成30年度に実施した被害想定調査結果に基づき、令和2年度から令和6年度の5年間で備蓄計画を作成し、計画に基づいた備蓄物資の整備を行っています。賞味期限のある、お粥、パン、ビスケット等の期限切れに伴う入れ替えを進めてまいります。

8ページ目、避難所運営体制の構築についてご説明させていただきます。備蓄物資を配備する上で欠かせないのが、女性を含めた要助者への配慮となります。特に女性特有の課題に対応した備蓄物資の配備を進めてまいります。今年度は、生理用品や液体ミルク等に加え、離乳食を配備いたしました。令和6年度は、賞味期限切れの入れ替えを行うと共にこれらを継続して配備すると共に、さらにサンタリー用ポリ袋を配備する予定となっております。

備蓄物資の配備数量や目標数量について次のページでご説明させていただきます。スライド9ページ目、女性特有の課題に対応した備蓄物資の現在の配備数量と目標数量となります。液体ミルク及び使い捨て哺乳瓶、離乳食については目標数量に達しておりますが、賞味期限が短いため入れ替えを随時行っております。生理用品及び簡易更衣室については、目標数量に対して不足しているため、来年度以降も引き続き購入を進めてまいります。

続いて10ページ、最後のページとなります。三つ目の取り残されたくない避難体制の構築についてご説明いたします。今年度、ペット受け入れ施設を屋内に確保し、ペットと飼い主が共に屋内に避難できる同伴避難を109カ所の避難所のうち42カ所で可能としました。令和6年度以降も次の通りペットと一緒に躊躇することなく避難できる仕組みづくりを継続して進めてまいります。

一つ目は備蓄品の充実について。今年度配備したゲージ等の他に災害時に必要となる備蓄品の購入。二つ目は、現在42カ所で可能な同伴避難を拡充できるよう避難公共施設の整備と選定、三つ目はガイドラインについて公共施設の見直しを含め専門家等の意見を踏まえつつ修正と更新を行っております。四つ目は避難所の衛生管理や救護活動の内容について発災時により的確に動けるよう、内容の更新や具体化を図ることにしております。

以上が、令和6年度の防災計画の推進となります。私からの説明は以上となります。ご清聴ありがとうございました。

(ふるさと協議会 志水)	以上が令和6年度に柏市が避難所の体制を強化するための内容となります。令和4年、5年で、 各自治会の在宅避難用としてふるさと会館に物資を配布している と思うのですが、全部で300程度ある町自治会のうち、どのくらいの割合が配給を受けているのでしょうか。
(防災安全課 増田)	想定以上に希望があったので皆さんのご希望数は配られなかったと思うのですが、 実際に配ったのは50箇所、6分の1程度 かと思います。
(ふるさと協議会 志水)	自治会でふるさと会館などの施設を持っているところでは、町自治会に対しての物資の供給がされていますので、今回は予算的に厳しいということですが、そういう対応も必要かと思われます。今回の能登を見ていますが、自助を強化して自宅には物はあるものの、自宅が崩壊してしまったら自宅の物を持ち出せない事態となっていました。報道では共助の部分が充実していなかったのかというような内容が多く、自分のところの備蓄が駄目になった場合に公助を頼むしかなく、間にあるべき共助の部分が抜けているような印象を受けました。 自治会や地域では物資を持たないという考え方もありますが、ある程度は持っておかないと自助だけに頼っていたのでは家屋が潰れてしまったらダメになるという感じを持ちました。 その点は市はどのように考えますか。
(防災安全課 増田)	ある程度の自助をお願いしていますが、家が崩れてしまったり、珠洲市の状況を見ていると、 自助と公助だけでなく、町会にお願いしている物資の配給を含め、共助の部分を強化する必要がある と考えています。
(町自治会)	共助は必要なのですが、町会等で非常食を保管できるスペースがあるのでしょうか。 西山町会のように物資倉庫を備えているところは良いのですが、増尾町会では備蓄倉庫を4か所持しているものの、賞味期限などの問題もあって、自分で食べるものについては自分たちで用意することを基本としているのですが、珠洲市の状況を考えてとそうも行かない面もあります。皆さんの町自治会ではどのように考えているのでしょうか。
(町自治会)	松野台自治会でも 基本的な考え方として、食料や水については各自で備蓄することを お願いしており、自治会では 個人で保有できない機材を備蓄すること にしています。令和5年に市から非常食を60食程度いただいたのですが、600世帯のところその程度があっても、期限までは備蓄する必要があると訓練で使うわけにもいきませんし、対応に困っている面があります。
(町自治会)	サンパセオでは、昨年「防災便り」を作って全世帯に配布しました。この中では、 非常食や飲料水については3日間分を用意することを推奨すると同時に、柏市で推奨しているように、サンパセオでも耐震性を考えて在宅避難を推奨 しています。物資の供給方法については市から配られると思っていたのですが、昨年、この会議に参加した方から、市から自動的に供給されるのではなく、こちらから情報提供して取りにいかないかと配給されないということを知りましたので、その点については市からもっとアピールしていただくことをお願いしたい。また、市の備蓄品で賞味期限を迎えたときはどのような対応をとっているのでしょうか。 戸建てとの違いとして、集合住宅ではペットの飼育は禁止となっています。避難所にペットと共に避難する場合、動物アレルギーなどいろんな問題があるかと思われますが、ペットの場所をどうするのかについてもお伺いしたい。
(防災安全課 増田)	ペットの扱いについては、動線を別にするようにはしています。飼い主さんはペットと一緒にいたいという希望ですが、 柏市としては、飼い主は避難所にいることとしても、ペットはペットだけのスペースに保管する対策 をとっています。在宅避難の物資については、柏市には112カ所の指定避難所がありますので、過去の災害では、物資は大量に来るものの、それを避難所に運搬するのが困難な状況です。 物資の供給は指定避難所だけになると 思われます。在宅避難や自主避難所に物資を届ける手段を確保するのは困難なことが想定されます。 賞味期限が切れた物資については、賞味期限残が1年を切ったものについてはホームページなどで公開して、町会などのイベントなどに使用してもらうように しています。余ってしまったものについては、フードバンクや柏市の保健所を通じて生活困窮者に対して配るようにはしており、食料を廃棄するようなことはございません。
(町自治会)	新柏二丁目です。我々の町会でも高齢化が急速に進んでいるのですが、 超高齢の方に対して、市として特別な対策を講じておられるのか 、あるいは自治会の中でK-Netを含めた共助と自助で対応すべきものなのか、その点はいかがでしょうか。
(防災安全課 増田)	高齢の方を含めた要支援者に関しては、避難所に福祉避難室を設けて、高齢者や要介護の方で体育館に いることが難しい場合は、一旦その部屋に入っていたいで、その後、場所は公開していないのですが、柏市が受け入れ可能かどうかを確認した上で、福祉避難所という二次避難所に移っていただくこととなります。移動については、福祉避難所と協定を結んで実施することになっています。
(町自治会)	二次避難所というのはある程度のキャパはあるのでしょうか。
(防災安全課 齊藤)	二次避難所は福祉施設であったり民間のホテルとかになりますので、通常は利用者の方がおられますので、発災時には、まず通常の避難所に入っていたいで、生活が難しい場合に二次避難所である施設に空き状況を確認したうえでマッチングになります。二次避難所を公開してしまうと、勘違いをされた方がいきなり行ってしまって、施設に迷惑をかけてしまうことが危惧されますので、 現在は公表をしていない という状況になります。
(町自治会)	資料の①「防災拠点、避難所での電源確保について」で、近隣エンター20箇所給電可能なハイブリット車を配備とありますが、これは市の職員が使うということでしょうか。
(防災安全課 増田)	現状では、職員が使う予定ということになっています。
(町自治会)	次の②自家用給油取扱所整備事業というのは、初めてそのような施設を作るのですか。
(防災安全課 増田)	柏市では初めてとなります。これは消防車と救急車優先の設備なのですが、余りそうな状況になれば、避難所の発電にもガソリンを使いたいと考えています。
(町自治会)	⑤のマンホールトイレについて、防災公園には30個か40個あるかと思いますが、使用時のテントはどこかに保管しているのでしょうか。
(防災安全課 増田)	マンホールトイレ用のテントは、避難所にある市管理の保管庫に入っています。

(町自治会)	サンパセオにも簡易的なテントとトイレがあって数年前の防災訓練の際に実際に建てようとしたのですが、敷地内がコンクリートに覆われていて固定できない為、サンパセオでは実際には使えないということになりました。
(町自治会)	④の飲料水の整備及び改修にある耐震性貯水装置は、このあたりではどこにあるのでしょうか。
(防災安全課 増田)	光ヶ丘中学校と増尾西小学校、ニッカウキスキー柏工場、中原ふれあい防災公園、第三水源地にあります。
(町自治会)	資料で「災害後72時間乗り切る体制」とありますが、4日目以降はどうするのでしょうか。
(防災安全課 増田)	4日目以降は、国と県から物資が届くことを想定しており、72時間は国と県からの支援が一切ない状況で耐えられる体制を構築することになっています。
(町自治会)	③生活用水の整備のところで、令和6年度に南部地域で5校とありますが、この中には増尾地域の学校もありますか。
(防災安全課 増田)	柏市にはデータ分析室というのがあり、地域の市民の数と周辺に井戸があるかどうかというようなデータを元にして優先度を決めているのですが、現在計画中という段階です。
(町自治会)	マンホールトイレがあるところを優先的に整備するという話があったかと思うのですが。
(防災安全課 増田)	学校のプールの水をマンホールトイレに使用するという想定していたのですが、教育委員会からプールを使わないという方針が出されてプールに水がない状況ですので、マンホールトイレがあるところを優先的に手押し井戸の整備を行っていく予定です。
(町自治会)	井戸についてですが、この地域は比較的地下水が豊富ですので、公園であれば井戸を掘るスペースがありますので、市の公園管理課に相談したところ、井戸は公園の使用目的外なので掘ることはできないと言われたのですが、防災安全課としてはどのような立場なのでしょうか。
(防災安全課 増田)	今後調整していきたいのですが、公園の運用方法は法律で決められていますので、公園に井戸を掘ることは難しいかもしれません。
(町自治会)	実際に井戸を掘れるのは個人の敷地になるのですが、市として他の対案はないのでしょうか。
(防災安全課 増田)	まずは、令和9年度までの市内の全小中学校への水源確保に対応したいと思います。
(町自治会)	東映第二だったか自治会の敷地に井戸を掘られています。松野台では、ふるさと会館が井戸が掘れるような構造ではないものですから断念したのですが、自治会の会館で井戸を掘るスペースがあるところは、実施を検討してはいかがでしょうか。
(ふるさと協議会 志水)	実際、井戸に関しては柏市では60カ所くらいの民間の井戸を災害用ということで認定していると思います。これはあまり公表されていないのですが、増尾地域にも協定を結んでいる井戸があるはずです。
(町自治会)	松野台にも1軒あるかと思いますが、個人の所有ですので平時の公開には問題があるのかもしれませんが。
(防災安全課 増田)	市のホームページには情報を掲載しているのですが、公開して欲しくないという家庭がかなりの数になるものですから、掲載している情報は少ないという状況です。 ●柏市災害用井戸協力の家… https://www.city.kashiwa.lg.jp/bosaianzen/saigaiyouidokyouryokunoie.html
(町自治会)	増尾日立自治会の高橋です。事業計画の中で共助の部分がいろいろと問題になっており、三日分以上の避難食を備蓄しようとしても、自治会の中に共用の土地も会館もありません。自治会の役員会も個人宅のプレハブを借りて行っており、防災訓練を行おうとしても消防車を止めるスペースもなければ、消火器を使えるスペースもありません。災害用品を備蓄するスペースがない町自治会は多いと思います。非常用携帯トイレのようにコンパクトなものは各家庭での備蓄をお願いできるものの、自治会としての備蓄は難しい状況なのですが、市からは、どのような支援を受けられるのでしょうか。
(防災安全課 増田)	難しい問題かと思いますが、市としても考えていきたいと思っています。
(町自治会)	テレビで、体育館に10日も20日も滞在している報道を見ていますと、平常時から体育館に非常食を備蓄しておいて、非常時には学校単位で集まれるような方法を検討することで、体育館での長期避難になっても家庭にいると同様の生活が送れるようにできないものかと思いました。
(防災安全課 増田)	避難所の開設支援の向上ということかと思いますが、そのような課題についても検討していきたいと思っています。

3. 大規模災害時における自治会と行政の連携について

●地区災害対策本部配布資料…<https://www.masuofurusato.com/bouhan/bunso/240210-4.pdf>

(ふるさと協議会 志水)	次に、大規模災害時における町自治会と行政との連携についての項目に移ります。災害時にどのような情報を連携するのかについて、①から⑤の項目が自主防災組織の手引きの中に書かれていますが内容が漠然としており、前回の意見交換会でも宿題となっていました。今回、柏市では初めてになると思うのですが、地区災害対策本部である近隣センターから皆さんへの依頼ということで、情報を上げて欲しい項目のひな形を作っていますので、これを元に討議を進めたいと思います。
(防災安全課 増田)	大規模災害時における町自治会と行政の連携について説明させていただきます。資料を作った高田が今日は出席ですが、相談して作成しましたので、私から説明させていただきます。不足している情報や不要なものがございましたら、報告様式検討を含めて検討させていただきます。 まずは、情報の提供よりも身の安全を優先していただきたいと考えております。避難が必要であれば、地区災害対策本部や避難所に避難してください。次に、K-Netの名簿に記載された方の情報が分かりましたら報告をお願いしたいということになります。

3番目に皆さんの町会から欲しい情報として、**まずは在宅避難情報の提供をいただければと思っています**。在宅避難されている方を町会で把握できた場合は、その数を避難所に報告していただければ、避難所としても管理しやすくなりますので、可能であれば在宅避難者数を教えていただきたいと思ひます。

前回議題になったのが4番以降になりますが、前回はっきりお答えできなかった「**被害情報の提供**」についてご説明させていただきます。まずは、怪我などの人的被害について。大規模災害時には救急車などは来ないと思われまひるので、優先度が低いと思われれる軽症者については各自の判断で対応をお願いしたいと思ひます。重症と思われれる場合や判断ができない場合には、遠慮なく119番に連絡していただければ結構です。これは普段と変わらないのですが、交通事故に関しては110番に連絡してください。119番と110番は連動していますので、110番に連絡しても怪我人がいる場合には救急車が出動する形になりますが、**基本的には怪我人がいる場合は119番、事故の場合は110番でお願いします**。

車が横転して出られないとか、家が潰れてしまひて出られないというような場合は、119番で救助を要請していただきたいと思ひます。地区災害対策本部に情報提供をいただくのは助かるのですが、災害対策本部にご連絡いただいても事故への対応はできませんので、119番への連絡をお願いします。

次に被害情報の提供(2)で、物的被害についての優先して欲しい情報について。まずは、**緊急車両が通れるのかどうかを判断するための道路障害情報が自治体として一番欲しい情報になります**ので、地区災害対策本部又は災害時に立ち上がることになっている**災害時コールセンターに電話**していただければ、自動的に本部に連絡がいくようになっています。

次に欲しい情報として、ライフラインの情報になります。**ライフラインについてはライフライン事業者が直すことになりますので、基本的には各ライフライン事業者に電話をいただければと思ひますが、情報共有のために地区対策本部にも情報をいただければと思っています**。ガス漏れは危険な状況ですので、ガス会社の連絡先が分からない場合は119番や110番にご連絡いただければと思ひます。

次に被害情報(3)その他の被害ということで、火災。**火災については119番に連絡していただきますが、燃え広がる危険がありますので、情報共有として地区対策本部にもご連絡をいただくと共に、地域で避難を呼びかけてください**。次に建物倒壊についてですが、中に人がいる可能性がある場合は119番に電話をいただき、中に人がいないことが明らかかな場合は、優先度は低くなりますので、情報として地区災害対策本部に連絡いただければと思ひます。

地震が起きた後に大雨が降ったような複合災害の場合について。増尾地域では内水氾濫の危険はあるものの、河川の氾濫の危険性については、ほぼないかと思ひておりますが、被害がある場合は119番、被害がない場合でも道路が通行できないなどの情報があれば、地区災害対策本部にご連絡ください。

被害情報の提供についてまとめますと、人的被害が発生している場合や火災の場合は地区災害対策本部ではなく、消防や警察にご連絡いただき、ライフラインに関しては全てライフライン事業者に連絡をしてください。道路被害情報に関しては、地区災害対策本部かコールセンターにご報告をお願いします。いずれの情報についても、参考情報として地区災害対策本部にご連絡いただくことで、必要な体制を組みやすくなりますので、情報共有をよろしくお願ひいたします。

5番目の情報提供の要領についてですが、まず町自治会名、提供者の役職、氏名と連絡先を教えてください、次に情報の種類と現場の場所や状況などを教えてください。被害の対応状況については、通報済かどうかの状況と共に、消防など関係機関の対応状況も教えていただければと思ひます。

次に、6の連携のまとめとして、いただきたい情報を列挙させていただきます。

7の時間経過イメージでは、情報をいつまでに教えていただきたいのかを書いております。地区災害対策本部は1時間以内に職員が参集し、3時間以内に電話応答を開始することになっています。

(町自治会)	サンパセオです。ちょっと教えていただきたいのですが、柏市としては在宅避難を推奨しているという考え方でよいでしょうか。
(防災安全課 増田)	推奨しております。
(町自治会)	サンパセオでも在宅避難を推奨しているのですが、住民の避難情報については指定避難所である中原中学校全て上げれば良いということでしょうか。
(防災安全課 増田)	その通りです。
(町自治会)	あとK-Netについてですが、必要と思われる状態であってもプライベートな部分があるために未登録となっている方に対して、民生委員から話はされているかと思ひますが、登録してもらう良い方法はございますか。
(防災安全課 増田)	聞いている限りでは、民生委員さんからの声掛けと介護認定や要支援等の認定をもらうときの説明書の配布、それ以外に認定をもらっていないくとも不安な方に対しては全員出来るようにしています。町会の方に、病名や身体の障がい状況などの情報を言いたくないという方が入っていないというのが課題なのですが、一通りの周知はしているという状況です。
(町自治会)	個人情報保護法の関係があつて、情報の共有は管理組合の一部の方に限定しているのですが、災害があつたときに何もできない状態になってしまひます。そのあたりはどうなのでしょう。
(防災安全課 増田)	個人情報の扱いはなかなか難しい面があるのですが、 近隣センターでは要介護者、要配慮者で情報共有の同意を得られていない皆さんの名簿も保管していますので、そのような皆さんに対しては、対応が難しい地域の町自治会の皆さんに代わつて、柏市の職員が対応するという体制を組んでいます 。
(町自治会)	そのような体制があるということを知りたくとて共に、災害時に支援が必要な状態にありながらK-Netへの登録をされていない皆さんに対して、登録推進の積極的なアプローチをよろしくお願ひいたします。
(ふるさと協議会 志水)	今、地区災害対策本部の立場からの各自治体へのお願ひということで、道路の状況、火災、K-Netが大きな柱になっているというお話をいただきました。ライフラインに関しては、各事業会社に自分たちで電話をするということになっていますが、そのことでご質問はございますか。

(町自治会)	加賀町会の中井です。私どもの町会ではK-Netの登録者が56名いるのですが、超高齢や身体に障がいがあるという理由で登録している方にどう対応するかという事例をお話しします。加賀町会では約15世帯でひとつの班を構成し、班単位で登録者の面倒をみることにしています。そのために、K-Netに登録している方のご自宅に訪問し、「災害時には班単位で対応しますので、貴方がK-Netに登録していることを班の皆さんだけには周知させますよ」ということこの了解を得るようにしています。
(町自治会)	マンションの場合は、役員が一年で交代になってしまいますので、情報の扱いについて引継ぎが難しいという課題があると感じています。
(町自治会)	在宅避難情報について、加賀町会には1200世帯以上あるのですが、その世帯で誰が避難所に行って、だれが自宅に留まっているのかを把握することは、現実的には大変難しいと思うのですが、どう思われますか。
(防災安全課 増田)	確かに、災害時に在宅で避難している方の数をかぞえてもらうことは大変難しいと思いますので、避難所やふるさと会館に避難している方の数を把握することしかできないと思います。
(町自治会)	在宅避難の方であっても、直接避難所に出向けば必要な物資を受け取れるような仕組みがあればよいと思うのですが、いかがでしょうか。
(防災安全課 増田)	ホームページでは、在宅避難であっても、避難所で食料や水は配布しますということを書いてあります。
(ふるさと協議会 志水)	避難所に集まってくる個人に対しても物資を配布することになると、避難所運営委員会が大変になりますが、対応できるものでしょうか。
(町自治会)	戸建てで世帯数が多い場合は難しいと思いますが、マンションであるサンパセオでは在宅避難を推奨しています。
(ふるさと協議会 志水)	コロナで避難所の収容人数が5分の1程度になったことを契機として、マンションだけでなく一般住宅でも基本的に在宅避難を推奨することになっており、柏市でも町会のふるさと会館などに、在宅避難用の物資を保管することを推奨しています。柏市の人口は45万人であり、8万人の避難者を想定していますが、そんな数は避難所には入れませんし、コロナのような感染症が発生した場合は1万人程度しか収容できません。そうすると、7万人は在宅避難を前提としているのですが、災害基本法では在宅避難は避難者扱いされていませんので、物資は供給されません。柏市ではそのあたりの解釈が緩くて、在宅避難者数を届ければ避難している方と同様に物資を配布しますと言っています。そして、国として実施することになっているプッシュ型支援での運用を模索しているわけです。その運用体制ができれば、人数に応じてプッシュで物資が支給されるのですが、現状では、ある程度の人数を把握しないと、避難所でも対応に困ると思うのです。
(防災安全課 増田)	確かに、国もプッシュ式になっていまして、珠洲市の場合も、水と食料は市に大量にあり、それを避難所に届けられないという状況だったようです。送られてきた物資が多い分には良いのですが、想定外に被害が大きくなった場合に足りなくなることも危惧されますので、在宅避難者数ある程度は把握しておきたいというのが市の方針です。ただし、現実問題として、一軒一軒聞いてまわって在宅避難かどうかを把握することはマンションであれば可能かもしれませんが、戸建てでは大変難しい状況にありますので、現状では在宅避難の方に物資を配るためには、個人に避難所に来ていただく方法しかないのが課題かもしれません。食料と水に関しては国からの支援がプッシュ型になっていますので、避難所にはどんどん送ることになっています。
(町自治会)	在宅避難者状況の連絡方法で、電話が通じていない場合はトランシーバーを使うことになっていますが、それだけで伝わるのでしょうか。実際に避難所まで誰かが行って、被害状況を伝えなくともいいのでしょうか。
(ふるさと協議会 志水)	実際に行かないとだめです。そのへんのことを防犯防災部からの配布資料の4番の、「能登半島地震で多く発生した、農業用ハウス・集会場などの自主避難所について」で書いています。【指定外避難所及び在宅避難者の情報について「地区対策本部の視点から町自治会の皆さまへの依頼」の項3で物資支給の要請について地区対策本部へ連絡するとありますが、合わせて受取避難所への連絡が必要になります。指定外避難所及び在宅避難者の情報については、住民の安否情報を含め避難情報を町自治会（自主防災組織）での把握が必要となります。】つまり、基本的に、出来る出来ないは別にして、そのような情報を上げないと、どこにも情報をつかめるところはありません。個人でバラバラ来ても対応しますという方針になればそれでいいのですが、現状では、【避難所運営委員会の運用は、実際の避難者数と町自治会からの在宅避難者数等と合わせて市災害対策本部へ支給物資の要請を行い、支給された物資を町自治会が申請した避難所で受け取ることにしています。住民個人が避難所に行って受け取りことはできません。】ということ避難所の運営方法としています。
(町自治会)	先ほどの話で、個人が行っても水と食料は別だという話がありましたが、それはどうなのでしょう。
(防災安全課 増田)	避難所に個人で来た在宅避難者に対して水と食料をあげられないというのは、現実には難しいと思います。ブルーシートなどは難しいかもしれませんが、水と食料に関しては国からはプッシュ型で大量に来ますので、対応可能ではないでしょうか。
(ふるさと協議会 志水)	国からプッシュ型で送られてくるというのは決まっているのですが、柏市として対応可能な体制にあるのかどうかについては、まだ未確定な状況だと思っていたのですが、避難所で物資が必要になっている人数が把握できていない状況でも物資は届くということですか。
(防災安全課 増田)	実質的には、国からプッシュで届いた物資については、想定の数割りで、全て避難所に送り出す予定でいます。
(町自治会)	ということは、各避難所で利用する町自治会は想定されていますので、在宅避難か避難所を利用するかに関わらず、その地域の想定利用人数に応じた物資を送り出すという体制ができていると考えて良いということでしょうか。
(防災安全課 増田)	そういうことになります。
(ふるさと協議会 志水)	国がそういうことを言っているのはわかるのですが、前回の意見交換会では、「国からプッシュ型の支援があっても、柏市としては今までのとおり避難所からの要望数を受けて配布いたします。」というように議事録の内容を訂正した経緯があるのですが、今回は本当に対応できるようになったのでしょうか。

(防災安全課 増田)	<p>柏市としても、各避難所に対してプッシュ型で物資を配布するということになっていますので、大丈夫です。</p> <p>●プッシュ型支援とは…https://www.bousai.go.jp/taisaku/hisaisyagyousei/pdf/push_saigai.pdf</p>
(町自治会)	<p>ということは、市としては在宅避難かどうかに関わりなく、各避難所で必要になるであろう物資の量を想定した上で、要望数を確認することなく物資を送ることにしているということが良いですね。</p>
(町自治会)	<p>市から避難所への物資の送付はそういうことかもしれませんが、現実問題としては、大勢の在宅避難者が個人で避難所に物資を取りに来た場合、避難所として対応できるような体制にはなっていないので、各町自治会で必要な物資の量を町自治会の対策本部で把握した上で避難所にまとめて取りに行き、その後、各町自治会から必要な住民に対して配布するという方法が良いのではないのでしょうか。</p>
(町自治会)	<p>町自治会に入っていない皆さんの場合、個人で避難所に物資を受け取りに行く方もいることが考えられますが、そういう皆さんを拒絶するわけにはいきませんので、町自治会でまとめて受け取って配布することを基本としながらも、例外は認めるしかないと思います。</p>
(町自治会)	<p>災害が起きた時に、その地域の住民以外の皆さんも対象にせざるを得ないのが現実だと思います。</p>
(町自治会)	<p>災害時の適切な対応を確保するためにも、町自治会に入っておくことが大切だというアピールをしておくことも大切なことではないでしょうか。</p>
(町自治会)	<p>プッシュ型で支援物資が送られてくる体制になると、各町自治会で在宅避難者数を把握する目的というのは、地域で必要となる支援物資の量を把握するというだけでなく、物資を必要としている方の人数を把握することになるのですが、市としては本当にそれで良いのでしょうか。</p>
(防災安全課 増田)	<p>必要な食料と水の配布ということに関してはそれで良いと考えています。</p>
(町自治会)	<p>確認なのですが、中原中学校の前の水源地在災害時に給水所になるということになっていますが、そこは、災害時にはオープンになって、誰でも行ける施設になっているのでしょうか。</p>
(防災安全課 増田)	<p>水道部に確認したところ、災害時に施設を開ける順番が決まっており、水源地が1位だそうです。水源地は防災で指名している職員が開けるのですが、誰でも使っていただいて構いません。</p>
(ふるさと協議会 志水)	<p>水源地には倉庫があり、中に水パックとかいろいろ置いています。3～4年前に近隣の自治会を対象に訓練をやったことがあり、水道部の職員から手順なども教えてもらっています。</p>
(町自治会)	<p>避難訓練を実施するときに、松野台自治会では安否確認の訓練しかできていません。今回のテーマである優先的に欲しい情報として、地域の家屋倒壊などの被害情報という話があるのですが、訓練の時に、そのような情報を集めることを行っているところはあるのでしょうか。</p>
(町自治会)	<p>私どもの自治会では自主防災会があって、12月には芋煮会を毎年やっているのですが、民生委員の方と自治会の役員、自主防災会の方で、K-N e tに登録している方の情報共有のための訓練は行っています。</p>
(町自治会)	<p>安否確認以外に、仮定の被害状況を設定するなどして、そのような情報を集めるための訓練は行っていますか。</p>
(町自治会)	<p>西山町会さんでは、安否確認を行う際に道路陥没や火災が発生している状況を想定して、状況を表す目印などを置くと共に怪我人についてはダミー人形を道路に置くなどして、情報を集める訓練を実施しているようです。</p>
(ふるさと協議会 志水)	<p>地区災害対策本部では被害状況の情報が欲しいということであり、一番欲しいのは物資を供給するための道路状況だということですので、その手順を考えておく必要があると思われます。</p>
(町自治会)	<p>安否確認というのは災害が発生した時に一番最初にやること柄であり、道路の状況や家屋の倒壊状況については、安否確認が終わった後で役員が手分けして行くべきかと思っているのですが、災害状況確認手順の事例があれば教えて欲しいと思った次第です。</p>
(町自治会)	<p>サンパセオ新柏アネックスでは、震災時の家族の安否確認と住民間の情報共有のために、有料のアプリケーションの導入を検討しています。</p> <p>●アプリケーションの説明パンフ…https://www.masuofurusato.com/bouhan/bunshyo/240210-6.pdf</p>
(町自治会)	<p>柏市の資料では、K-N e tが一番最初にきていますので重きを置いているのかと思いますが、運営している部署と連携するための事例紹介が少ないと思いますので、状況に応じた事例の発信もお願いしたいと思います。</p>
(ふるさと協議会 志水)	<p>5番目の町自治会と地区災害対策本部との通信手段について。過去の地震で携帯電話の基地局が破損してつながらないということがありましたが、増尾地区は無線機のテストを年3回実施しており、通信網が遮断された場合には無線機を使うことになっています。ただし、柏市の防災計画では無線機の利用については一切触れていません。</p>
(町自治会)	<p>松野台自治会です。今回の能登半島の地震について発災三日後に金沢市の友人から連絡があったのですが、災害時にフリーWi-Fiはauとドコモが解放されたので、すぐに使えるようになったそうです。</p>
(ふるさと協議会 志水)	<p>増尾地域のトランシーバー通信システムについては、4～5年前に柏市から補助金が出てほとんどの自治会で導入したのですが、我々以外のふるさと協議会での導入についてはどのようになっているのでしょうか。</p>
(防災安全課 増田)	<p>柏の葉ふるさと協議会では、トランシーバーで交信する手段を確保しているようですが、全てのふるさと協議会で導入しているわけではありませんので、地区の拠点となる近隣センターでは、何らかの交信手段を確保しておく必要性は感じています。</p>
(ふるさと協議会 志水)	<p>市として、もう一度補助金を出してトランシーバー導入を推進するなどの手段は考えていませんが。</p>
(防災安全課 増田)	<p>予算などの問題はありますが、考えたいと思います。</p>
(町自治会)	<p>地区災害対策本部と避難所との通信というの、トランシーバーで連絡をするという理解でいいのでしょうか。</p>
(ふるさと協議会 志水)	<p>そうではなく、トランシーバーは地区災害対策本部の職員と自治会とのやりとりのために使用することになっており、地区災害対策本部と避難所の交信は柏市の防災無線を使用します。</p>
(町自治会)	<p>各自自治会からK-N e tの安否確認報告や被害状況報告を地区災害対策本部に行う場合に、電話がつながらないときにはトランシーバーを使って行うことになります。</p>

(町自治会)	各自治会が持っている無線機は充電式であり、充電するためには交流電源がないとダメかと思ひます、電池パックも使用できるようにすると良いのですが、どうでしょうか。
(ふるさと協議会 青柳)	電池も使えるようになるかどうかは確認が必要なのですが、充電状態は長期間保てますので、年3回の交信テストの機会に充電状態をチェックいただくことで、緊急時には対応可能かと思ひています。
(町自治会)	市の防災安全課の方に今後検討いただきたいこととして、サンパセオでは敷地内に道路がありませんので、道路の陥没などはありません。防災訓練を行う場合も、担当者によるK-N e t登録者の安否確認を行ったり、玄関にマグネット式の安否確認シートを貼る訓練や、消防車に来ていただいたの消火訓練などを行っているのですが、一戸建と条件が異なるマンション同士の交流の機会というものをぜひご検討いただきたいと思ひています。
(ふるさと協議会 志水)	次に、柏市から 防災備蓄倉庫の管理についての覚書案 が出ています。 ●覚書… https://www.masuofurusato.com/bouhan/bunsyo/240210-5.pdf 避難所に置いている防災備蓄倉庫というのは、基本的に柏市の備品以外は入れられないことになっており、ふるさと協議会や避難所運営委員会で備品を購入しても倉庫には入れることができません。それを、このような覚書を交わすことによって、入れることができるようにしようというものです。
(防災安全課 増田)	避難所の小型倉庫にいろんな備品を入れたいという町自治会からの要望を受けて作った覚書の案になります。現状では空間に余地があっても将来柏市の備品を入れる場合は取ってもらうこともあるというような、倉庫の運営に必要な事項を記載したものです。まだ実験の段階であり、増尾地域ふるさと協議会が最初の締結対象になるかと思ひますが、基本的には増尾地域の全避難所と覚書を交わしたいと思ひています。
(町自治会)	この覚書は柏市と増尾地域ふるさと協議会との間の覚書となっていますが、各避難所を使っている町自治会が格納したいと思ひている備品を置くためのものと考えていいですね。
(防災安全課 増田)	対象となる各避難所を明記した上で、避難所ごとに覚書を交わすことになります。
(町自治会)	これは、市から提案をいただいた覚書ですので、市として、我々の要望を受け入れていただけた上で、具体化するために覚書が必要だという判断に至ったと考えてよろしいですね。
(防災安全課 増田)	各避難所の状況に合わせて個別に調整した上での締結になりますが、基本的にはそういうことになります。
(ふるさと協議会 志水)	それでは時間になりましたので、令和5年度の町自治会と行政との意見交換会を終わりにさせていただきます。